

SAP Inside Track TOKYO 2025

#sitTokyo



SAPイベントに参加すべき3つの理由

～SAUG-x / TechEd on tour Melbourne での経験と学び～

発表日：2025/02/28

氏 名：長嶋 昌由 (ながしま ひさよし)、大岩 香緒里 (おおいわ かおり)

会 社：株式会社K Y O S O

Hisayoshi Nagashima



Hisayoshi_Nagashima

Newcomer

Member since 2019 Nov 12

名前： 長嶋 昌由（ナガシマ ヒサヨシ） ハンドルネーム (igunaga)

会社： 株式会社KYOSO

部門： ビジネスソリューション事業部ビジネスソリューショングループ

役割： グループマネージャ

SAP BTP の受託開発グループ統括

SAP Certified Development Associate (CP11, FIORIDEV20)

プロジェクトマネージャ試験／データベーススペシャリスト／情報処理安全確保支援士

趣味： ロードバイク、Zwift、マラソン

参加目的： SAP BTPに関する最新の情報を社内に共有するため

Kaori Oiwa



kaori_oiwa

Explorer

Member since 2019 Oct 25

名前： 大岩 香緒里（オオイワ カオリ） ハンドルネーム (kaori_oiwa)

会社： 株式会社KYOSO

部門： ビジネスソリューション事業部ビジネスソリューショングループ

役割： チームリーダー

SAP BTP の受託開発 開発リーダー

SAP Certified Development Associate (FIORIDEV21,SAC2021)

趣味： ドライブ、カラオケ、スポーツ観戦

参加目的： SAP BTPのトピックを共有し合うことで理解を深めたい

SAPイベントに参加すべき3つの理由

～SAUG-x / TechEd on tour Melbourne での経験と学び～

1. その1 : SAPイベントでのグローバルな熱量の実感
2. その2 : プロダクトマネージャとのネットワーキング
3. その3 : ハンズオン等でのリアルな学び（SAP Build Code / Jouleの活用）
4. 最後に（まとめ）
5. おまけ



その 1 : SAPに関わるグローバルな熱量の実感

SAUG-X 2024 / TechEd on Tour in Melbourne に参加してきました！



開催日時：2024/11/19～2024/11/20

開催場所：オーストラリア メルボルン

メルボルン コンベンション アンド エキシビション センター



その１：SAPに関わるグローバルな熱量の実感

<イベント参加の流れ・時系列>

- ・10月初旬：SAPジャパン様よりSAUG-Xの企画案内連絡をいただく。
- ・10月中旬：SAUG-Xの参加について社内調整。航空便や滞在費等を算出して自社での稟議申請（2名分で費用約 **150万**！）を提出し承認を得る。
- ・10月中旬：SAPジャパン様にSAUG-Xに参加する旨を連絡。
SAUG-Xの参加チケット購入手続きや航空便・宿泊の予約手続きを開始。
- ・11月上旬：SAPジャパン様（大手町）にて、参加者の[事前顔合わせ会](#)に参加
ここで各種事前情報（セッション予定等）や現地情報をご案内いただいた。
- ・11/17(日)：成田空港よりメルボルンへの直行便で出発（QANTAS航空）19:20発
- ・11/18(月)：現地 午前8時ごろ着。空港からバスでメルボルン市内へ移動。
当日にSAPジャパン様主催の[ジャパンNIGHT](#)に出席。
- ・11/19(火)：SAUG-X 1日目 ハンズオンセッションを中心に参加。
終了後ネットワーキングの会場で歓談など。
- ・11/20(水)：SAUG-X 2日目 聴講のセッションを中心に参加。
- ・11/21(木)：帰国の途につく



その1：SAPに関わるグローバルな熱量の実感

＜ジャパンNIGHTにて＞

お食事も
いただきました



SAUG-Xについて
現地での
情報アップデート等



その1：SAPに関わるグローバルな熱量の実感

SAUG-Xの様子① 基調講演



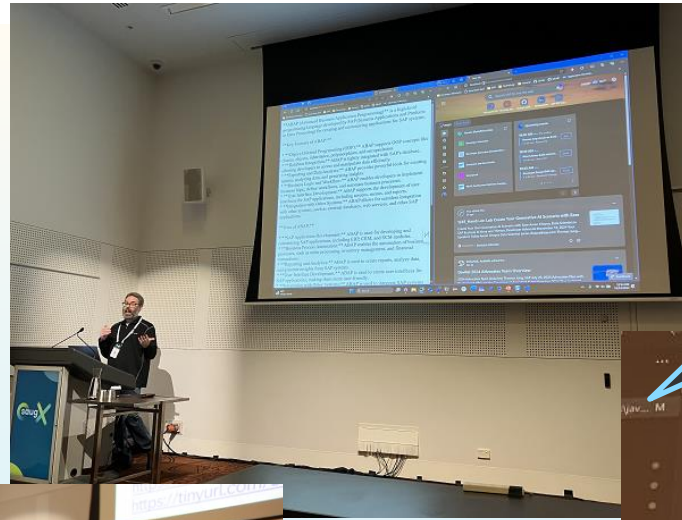
口頭では伝わりにくいですが、主催のSAUGだけでなく各参加者の熱意が空気感としてもとても強く感じられました。

基調講演には多くの参加者が出席し、皆さん熱心に聞き入っていました。



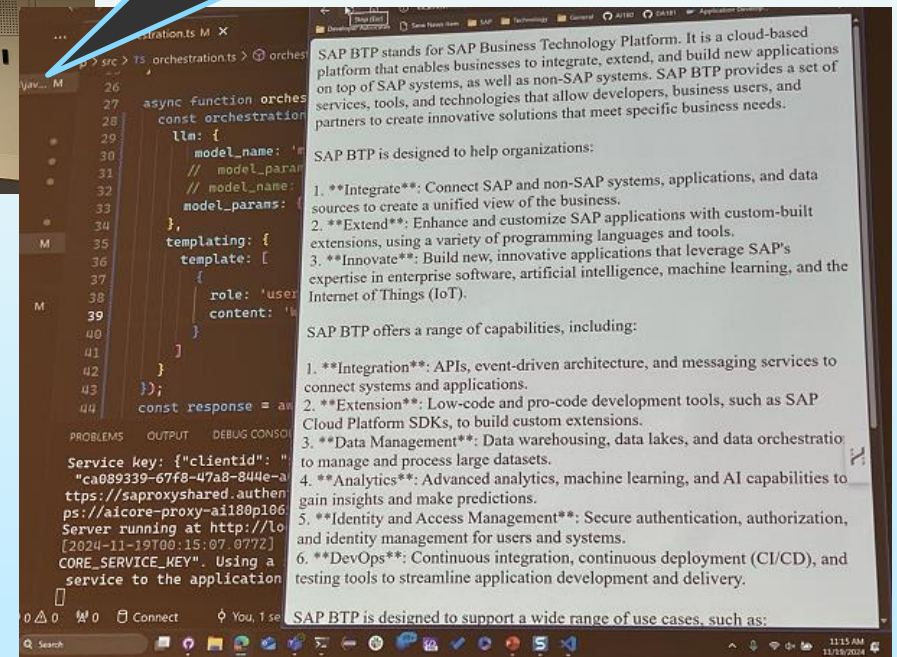
その1 : SAPに関わるグローバルな熱量の実感

SAUG-Xの様子② ハンズオンセッション



詳細な説明で
ハンズオンの実施内
容を主催マネージャ
がフォロー

ハンズオンは
先着予約制
でしたので
急いで
申し込み！

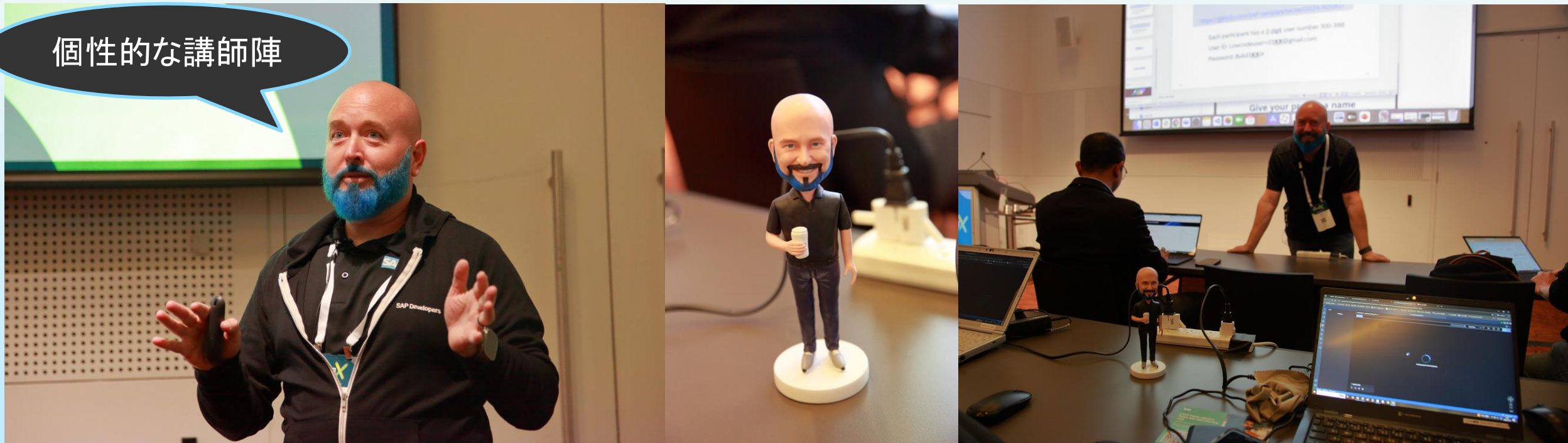


その 1 : SAPに関わるグローバルな熱量の実感

SAUG-X の様子② ハンズオンセッション

ハンズオンの内容はしっかり事前準備されており、AI関連をはじめとして非常に興味深い内容でした。（詳しくはその3にて）参加者はハンズオンの内容に集中して取り組み、上手く進まないところは講師役のプロダクトマネージャのフォローを受けながら、全員が時間一杯まで頑張っていました。

個性的な講師陣



SAPイベントに参加すべき3つの理由

～SAUG-x / TechEd on tour Melbourne での経験と学び～

1. その1 : SAPイベントでのグローバルな熱量の実感
2. その2 : プロダクトマネージャとのネットワーキング
3. その3 : ハンズオン等でのリアルな学び（SAP Build Code / Jouleの活用）
4. 最後に（まとめ）
5. おまけ



その2：プロダクトマネージャとのネットワーキング

現地でのネットワーキングにてプロダクトマネージャとの繋がりを持つ機会が！

SAP Integration Suite
のプロダクトマネージャ
Sunny氏と名刺交換し、
繋がりを持てました。



その2：プロダクトマネージャとのネットワーキング

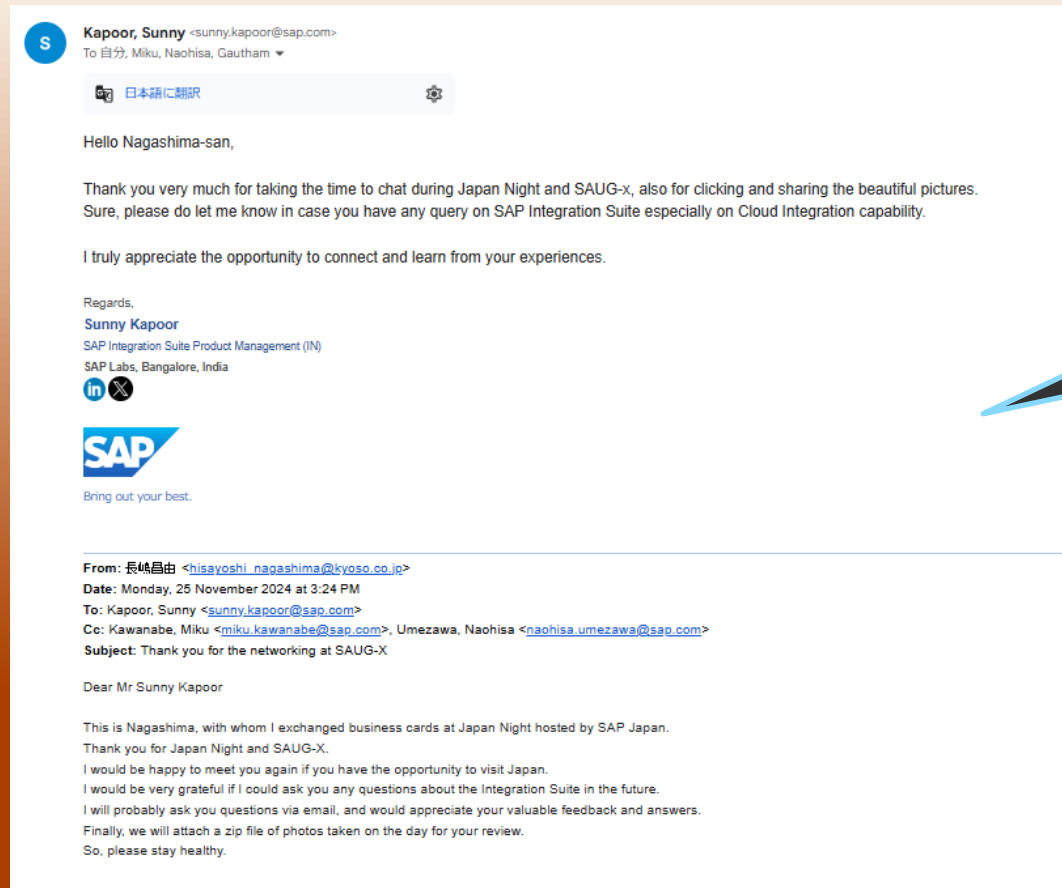
現地でのネットワーキングにてプロダクトマネージャとの繋がりを持つ機会が！



その2：プロダクトマネージャとのネットワーキング

現地でのネットワーキングにてプロダクトマネージャとの繋がりを持つ機会が！

今後、対象のプロダクトで技術的課題が発生した際のダイレクトな相談が可能に



帰国後にメールのやり取りも。
今後の技術支援について
協力を依頼。

SAPイベントに参加すべき3つの理由

～SAUG-x / TechEd on tour Melbourne での経験と学び～

1. その1 : SAPイベントでのグローバルな熱量の実感
2. その2 : プロダクトマネージャとのネットワーキング
3. **その3 : ハンズオン等でのリアルな学び (SAP Build Code / Jouleの活用)**
4. 最後に (まとめ)
5. おまけ



2024
11/19

9:00

基調講演

11:00

各種トラック

17:00

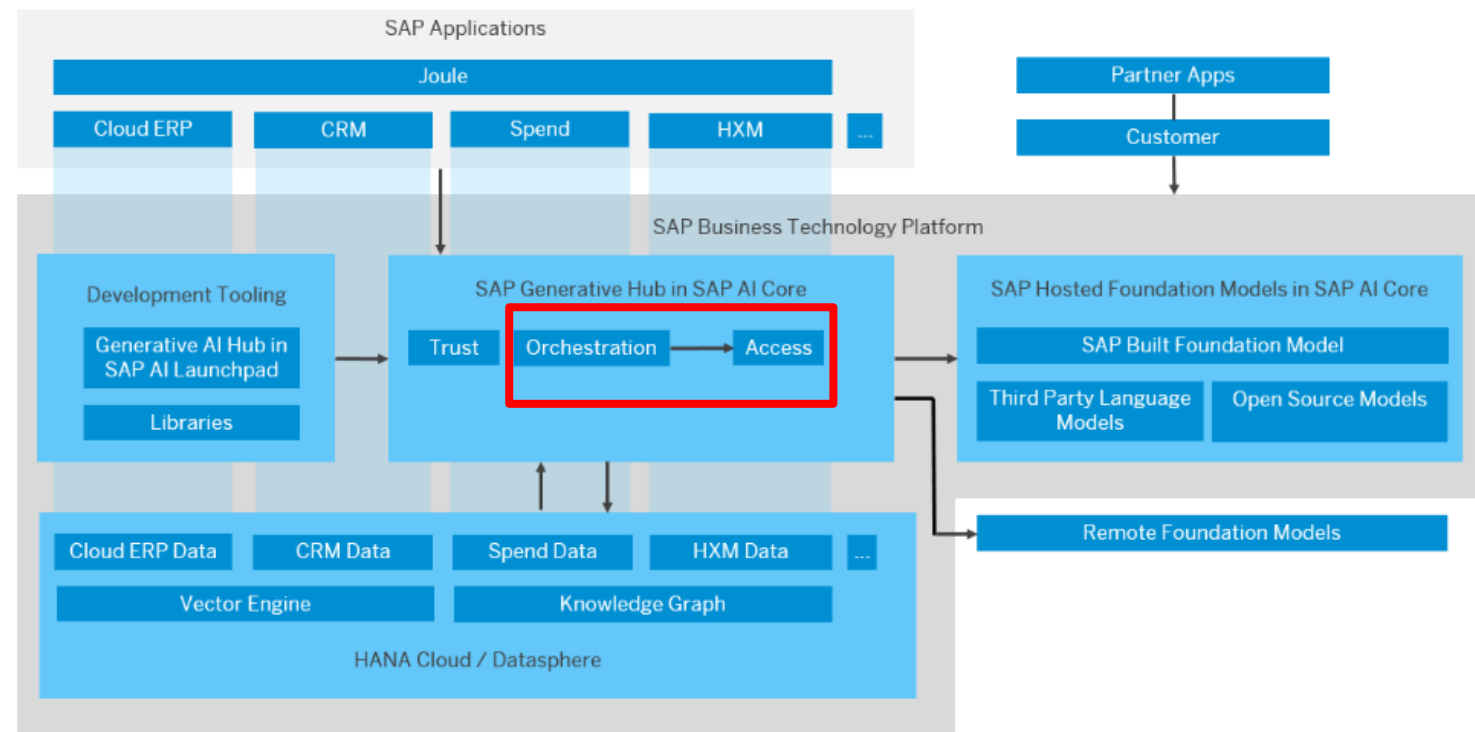
NetWorking

DAY1 : SAUG Melbourne Conference + TechEd

ビジネストラック（聴講）やハンズオントラックを通じた、既存ソリューションの活用パターンの紹介が中心。現地で受講したトラックを簡単にご紹介します。

1. Build Your own generative AI scenario for Your use case

SAP Cloud SDK for AI（JavaScript）を使用して、SAP Generative AI Hubのオーケストレーションサービスを経由し、GeminiをはじめとしたLLMにアクセスし、プロンプトの結果を対話形式で表示させるまでの一連の流れを、ハンズオン形式で学習。



2024
11/19

9:00

基調講演

11:00

各種トラック

17:00

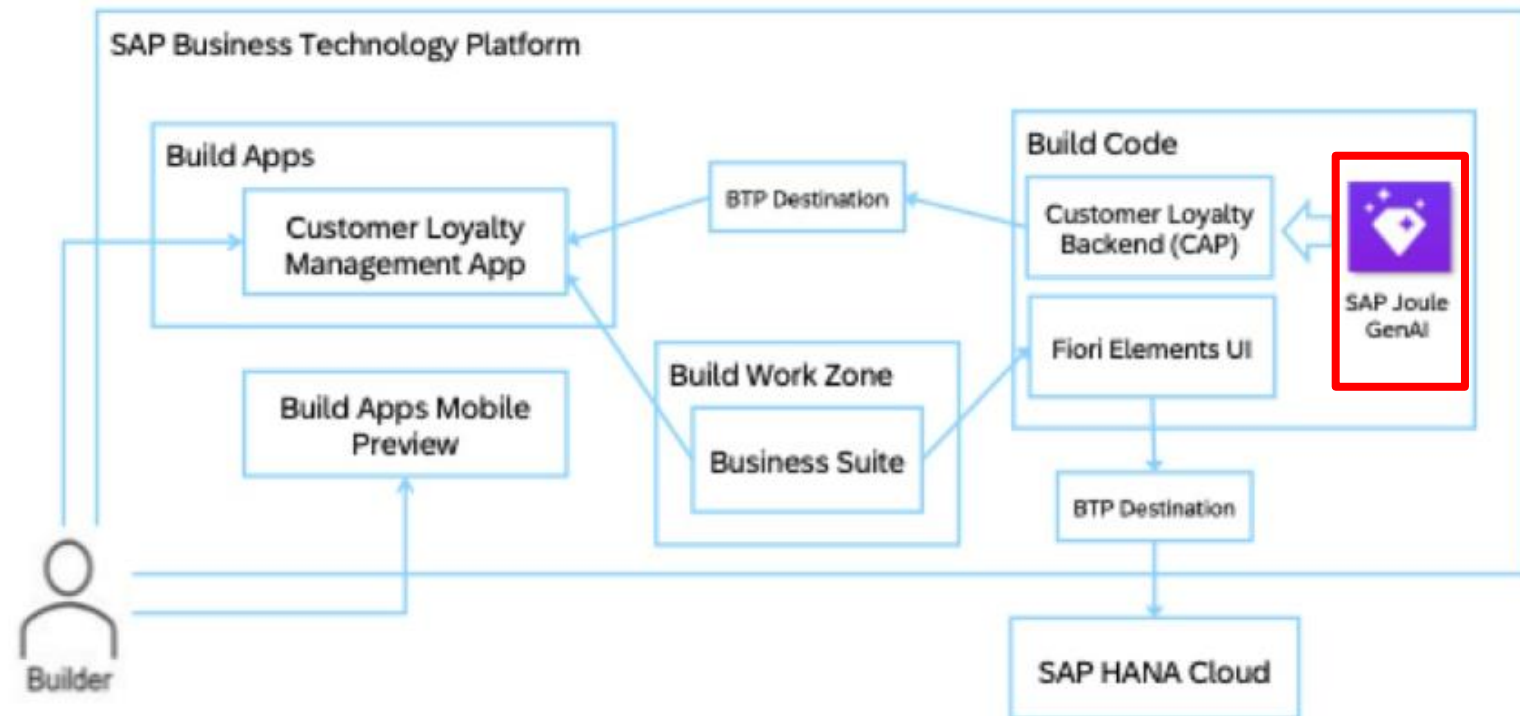
NetWorking

DAY1 : SAUG Melbourne Conference + TechEd

ビジネストラック（聴講）やハンズオントラックを通じた、既存ソリューションの活用パターンの紹介が中心。現地で受講したトラックを簡単にご紹介します。

2. Develop applications and processes with SAP Build and Joule

Joule（AI）を活用して、**SAP Build Code**で効率的にアプリケーション開発を行う方法を学習。Jouleによるデータモデル、バックエンド処理の自動生成と、UIアプリケーションの作成までをハンズオンで実施。



2024
11/19

9:00

基調講演

11:00

各種トラック

17:00

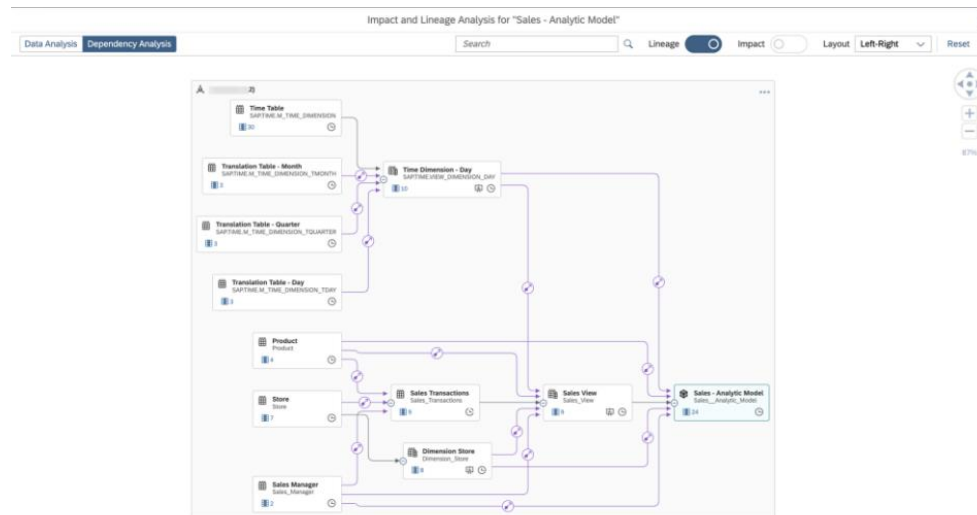
NetWorking

DAY1 : SAUG Melbourne Conference + TechEd

ビジネストラック（聴講）やハンズオントラックを通じた、既存ソリューションの活用パターンの紹介が中心。現地で受講したトラックを簡単にご紹介します。

3. Explore SAP Datasphere and SAP Analytics Cloud end to end

SAP Datasphereを使用したデータモデルの作成と、そのデータモデルを使用してSAP Analytics Cloudにて分析用のダッシュボードを作成するまでの流れを学習



2024
11/20

9:00

基調講演

11:00

各種トラック

DAY2 : SAP TechEd on Tour

Day2は聴講のトラックのみで、SAPソリューションの新機能の発表やデモンストレーションを中心に行われました。本イベントで発表された内容を一部抜粋してご紹介します。

1. AIデジタルアシスタント「Joule」の強化

- ・ お客様が独自にシナリオ開発できるツール「Joule Studio」の登場（2025/Q1）
- ・ JouleのABAP開発者機能を追加（2025/Q1）
- ・ JouleへのAI Agents機能追加により、横断的なワークフローの自動化が可能に（2024/Q4）
- ・ モバイルアプリでもJouleが利用可能に（2024/11）

2. SAP BTP に生成AIによる開発支援機能が登場

- ・ SAP Integration Suite に生成AI機能が登場（2025/H1）
- ・ SAP Fiori ToolsにAI機能を搭載（2025/Q1）
- ・ SAP Build Appsに生成AIによる画面生成機能が登場
- ・ SAP Build Process Automationに生成AIによるチャットベースでのワークフロー作成機能の追加
- ・ SAP Build Work ZoneにJouleが登場

SAUG-X ハンズオンでの学び

SAUG-Xのハンズオンで学んだ内容をもとに
弊社環境でもSAP Build Codeを構築してアプリ作成を試してみました。

アプリ作成の流れ

1 データモデル作成

2 サービス作成

3 UIレイアウト作成

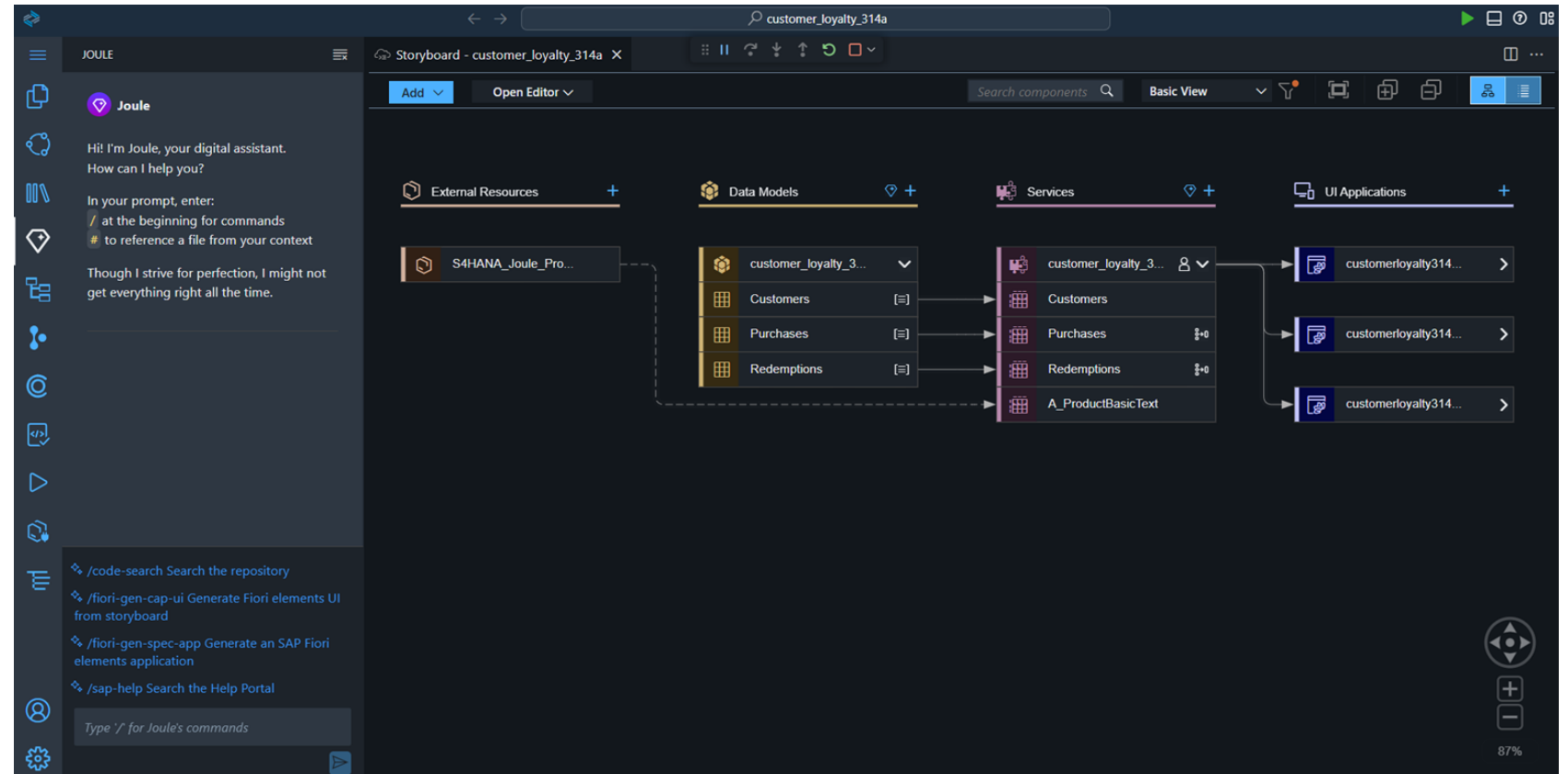


図. SAP Build CodeのEdit画面

SAUG-X ハンズオンでの学び

※ SAP Build Codeで実際に作成したアプリケーションの一例

< SAP Customers ▾

標準 ▾

検索

Customer Number:

フィルタ調整

Customers (5)

削除

▼

☐	Name	Email	Customer Number	Total Purchase Va...	Total Reward Poi...	Total Redeemed P...	
☐	Charlie Brown	charlie.brown@example.com	3,456,789	6,400	640	60	>
☐	Bob Smith	bob.smith@example.com	2,345,678	7,200	720	80	>
☐	Alice Johnson	alice.johnson@example.com	1,200,547	8,500	850	150	>
☐	Diana Prince	diana.prince@example.com	4,567,890	5,300	530	70	>
☐	Ethan Hunt	ethan.hunt@example.com	5,678,901	4,900	490	30	>

< SAP Customer ▾

3,456,789

削除

▼

General Information

Name:

Charlie Brown

Email:

charlie.brown@example.com

Customer Number:

3,456,789

Total Purchase Value:

6,400

Total Reward Points:

640

Total Redeemed Points:

60

SAUG-X ハンズオンでの学び



図. Jouleのプロンプト

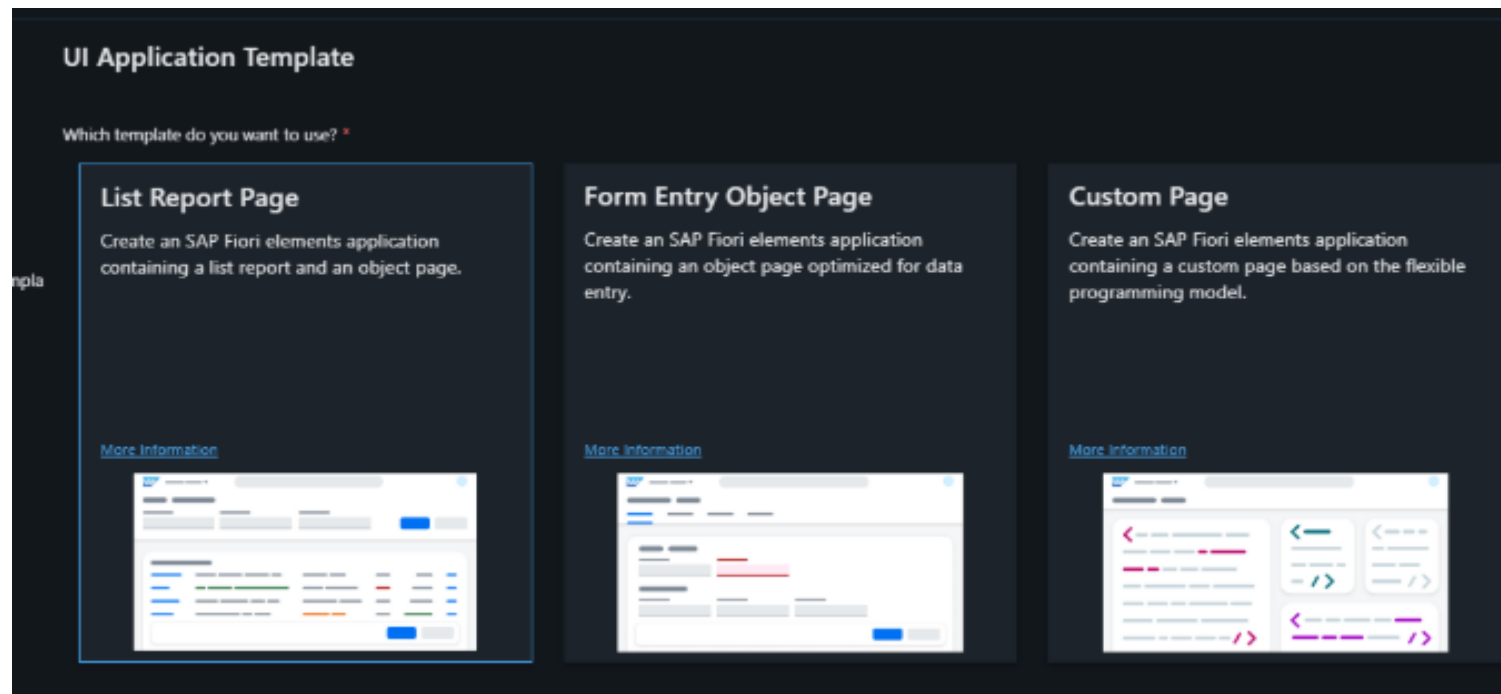


図. UIテンプレートの選択画面

Advantages

- ・ 評価目的に利用できる無料プランあり
- ・ データ定義、サンプルデータ生成、バックエンド処理の実装はJouleの補助を利用することができる
- ・ UIテンプレートに[List Report Page]を選択した場合、oData呼出、テーブル表示、検索機能を自動で生成可能

→汎用的なマスタメンテナンス画面の作成などに有効

Disadvantages

- ・ UIテンプレートに[Custom Page]を選択した場合、基本的には手動での開発となる
- ・ 日本語でもJouleに指示を投げることは可能だが、英語指示と比較するとやや精度が落ちる（レスポンス内容に揺れがある）

→非定型・日本語でのアプリケーション作成には不向き

SAPイベントに参加すべき3つの理由

～SAUG-x / TechEd on tour Melbourne での経験と学び～

1. その1 : SAPイベントでのグローバルな熱量の実感
 2. その2 : プロダクトマネージャとのネットワーキング
 3. その3 : ハンズオン等でのリアルな学び (SAP Build Code / Jouleの活用)
4. 最後に (まとめ)
 5. おまけ



4. 最後に（まとめ）

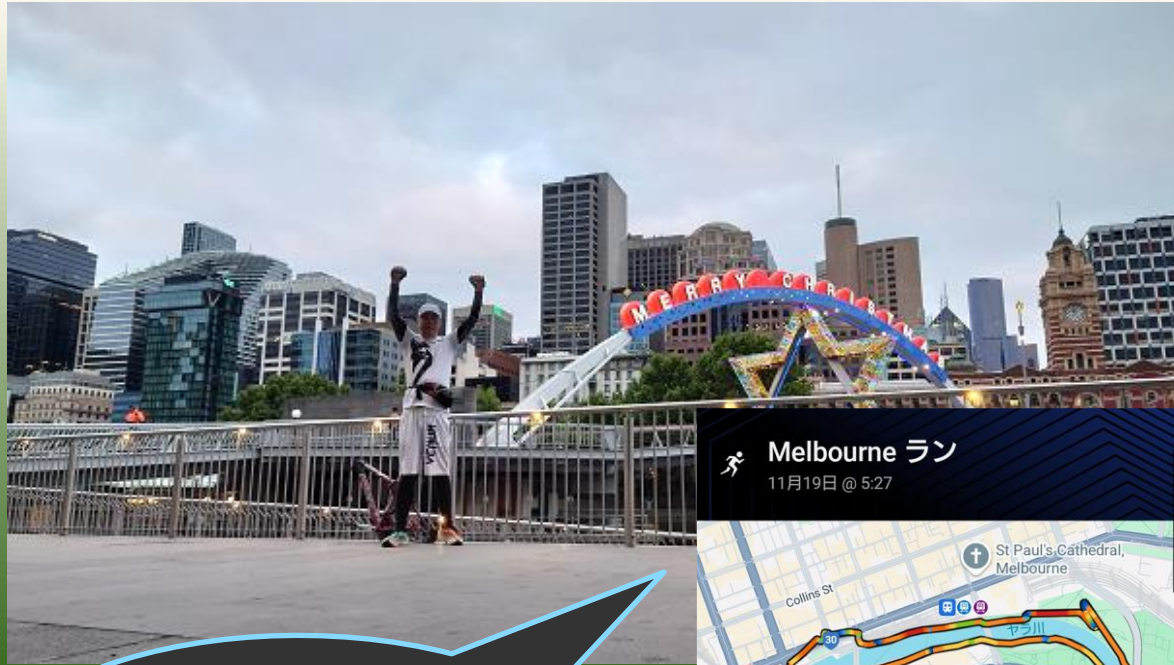
現地で関わる参加者のグローバルな熱気を実感し、コアな関係者とのネットワークを得て、なおかつ最新の技術動向についてハンズオンをはじめとした実地での学びを得るという、総合して非常に貴重な機会です。

SAP BTPをはじめとした技術領域に関わる方々で参加経験の無い方には是非参加をおすすめいたします！



5. おまけ

参加のついで？に現地でのアクティビティも（自分次第で）楽しめます！



現地でのスポーツ
早朝ランニング！
異国の地での
アクティビティログ



有名どころの観光・
視察

5. おまけ

いろんなSAPグッズもGetできます！



このコップ
今自宅でめっちゃ
使っています。



現地でGetした
アイテムです

EOF

ありがとうございました！